

平成30年度第4回秦野市行財政調査会（行財政経営専門部会）

1 開催日時	平成30年10月15日（月）午前9時30分から正午まで	
2 開催場所	秦野市役所本庁舎3階 3A会議室	
3 出席者	委 員	斉藤部会長、茅野部会長職務代理者、坂野部会長職務代理者、足立委員、横溝委員
	事 務 局	行政経営課長、同課課長代理、同課担当
	関係課等 職員	政策部長、企画課長、財政課長、企画課課長代理（企画政策担当）、同課担当
4 議 題	(1) 秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（秦野市総合計画後期基本計画リーディングプロジェクト）に係る平成29年度評価について (2) その他	
5 配付資料	資料1 まち・ひと・しごと創生総合戦略の外部評価（平成29年度）に係る「経過」及び「今後の予定」について 資料2 秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（総合計画後期基本計画リーディングプロジェクト）平成29（2017）年度評価報告書 資料3 総合戦略におけるK P I（重要業績評価指標）の達成状況一覧 資料4 市による自己評価の総括について（参考）	

6 会議概要

(1) 開 会

【事務局】 事務局より配布資料の確認

(2) あいさつ

【部会長】 皆さん、おはようございます。これから平成30年度の第4回会議を開催いたします。本日も議論を深めていきたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

議事に入る前に、議事録の署名委員を私の他に1名指名させていただきたいと思います。名簿順で、今回は茅野委員をお願いいたします。

それでは、事務局の方から議事（1）の資料の説明をお願いいたします。

【企画課】 資料1に基づき説明

【部会長】 資料1のスケジュール、内容等について意見等がなければ、次に

進みたいと思います。それでは、次の資料２の説明をお願いいたします。

【企画課】 資料２の説明（P1-P5）

【部会長】 ここまでのところで、質問、意見があればお願いいたします。

【委員】 評価の方法ですが、５ページの表は秦野市オリジナルで定めているということで、理解してよろしいですか。

【企画課】 はい。

【委員】 数値目標を入れて、その達成状況をAからDまでふって、それで総合評価となりますと、数値目標の評価がそのまま総合評価につながるという理解を与えます。２つのラージAやBが出てくことに疑問を感じます。ですから、総合評価に関する区分は置いておいて、その前提として数値評価を入れるのであれば、別の表の方がよろしいと思います。また、この数値評価ですが、判断の余地が入らないものであれば、評価ではないと思います。その辺りも含めて、この表を工夫した方がよろしいかと思います。

次に、５ページの一番下の「第三者の立場」からという文言がありますが、この行財政経営専門部会は、外部委員しか入っていないので、第三者の立場からという文言は、何を意味するのかが不明です。例えば、行財政経営専門部会という文言の前に「第三者で構成される行財政経営専門部会では、」という表現にしないと、この行財政経営専門部会での議論を第三者の立場からという方向性、拘束を出した、示したというように、受け取られるのではないかと感じました。

また、５ページの一番下の「今後の取組みに向けて、期待や改善を望む事項等を示します」とありますが、行財政経営専門部会が主体で行うとなると違和感があります。

【企画課】 表の扱いと「第三者の立場から」という表現については、工夫させていただきます。また、最後の「今後の取組みに向けて、期待や改善を望む事項等を示します」という部分については、具体的には、１０ページを開いていただきますと、一番下のところに外部評価の欄が空欄になっていますが、ここにコメントをいただくことを示唆しています。

【委員】 １つ目の表の部分は表記の問題だけでなく、数値目標の達成状況は

評価しなければいけないものなのか、それとも機械的に答えが出るものなのか、それによって、評価になるのか、単なる基準になるので、それを明らかにしていただきたいと思います。それから、3番目は、評価シートの説明をするのであれば、評価とは何かという話に戻ります。評価とは結果に対する評価であって、必ずしもその後の改善事項を示すものではないので、これと言うと、外部評価に課せられたものが、生起した事象に対する評価を超えて、それに対する改善策を求めるような印象を与え、これが外部評価になってしまいます。それは、違うと思います。PDCAで考えてみても、チェックまでは評価でいいですが、次のアクション対して、何をどうするのかは別の議論になります。ですから、そこまでに求めるとなると、別の議論が必要になってきます。

【企画課】 一つ目の部分ですが、委員の御発言のとおり、達成状況によって、機械的にAからDまで決まるので、そういう意味では評価ではないと思います。

【委員】 そうすると、基準の当てはめですので、同じ表記を使わない方がよろしいと思います。

【企画課】 基準の当てはめですけど、成果指標といいながら、現実に設定が難しく、そうになってないものがあります。そうしたときに、その一つの指標だけで、その施策を評価することができませんので、施策全体を見たときに、数値目標の達成状況から上の評価になったり、下になったりする余地があるということを表に示しています。

【委員】 そうですと、数値目標と総合評価の評価表が2つ出てくることになります。

【部会長】 4ページが一番下を読みますと、「数値目標だけでは効果を測りきれない事業もあることから、課題や取り組み状況等を勘案して、総合的な評価となっています」とありますけど、数値目標と総合評価が一緒になってしまっています。例えば、BがAになったり、BがCになったりとかは、「状況等を勘案して」としか書いていません。これでは、評価として、客観性が欠けてしまいます。

【委員】 要するに、数値は数値として評価したうえで、いろいろな事情がある中で、総合評価とするのであれば、数値目標と総合評価の部分を一緒に含めてしまうと、分からなくなります。

【企画課】 趣旨はそういうことですので、表を切り分けるなどして、工夫したいと思います。現実には総合評価していく中で、数値評価の基準から、一つ評価が上がったとか、下がったものもありますけど、この辺りは明確な基準を示すことはできませんけど、この辺りはいかがでしょうか。

【部会長】 そこに客観性を持たせることは大事ですよ。

【委員】 昨年と今年で自己評価の出し方は同じようになっています。昨年は数値目標の達成率はデータとして、達成率を出しているだけで、それを総合評価に入れているわけではありません。11ページのNo. 1の事業を見ますと、数値目標の達成状況の欄があって、平成29年度は対目標で142%の達成で、その右欄に自己評価はBで「概ね順調に進んでいる」として、総合評価になっています。そして、理由も一番右側に書いてあります。ですから、昨年は数値の達成状況を一つのパーツにしかしていなかったのですが、今年は数値目標のところで、評価を置いていますので、話が見えなくなってしまうと思います。

【部会長】 やはり、数値目標の達成状況というのは別にあって、いろんな条件があったので、総合的にこういう評価になったという書き方が初めて読んだ方が分かりやすいと思います。

【政策部長】 昨年は定量評価の部分にAとかBとかの評価を書いていませんが、記入した方がよろしいでしょうか。

【委員】 記入しなくてよろしいと思います。

【委員】 数値の達成状況と総合評価はリンクしますが、民間会社でもそうですが、下に行けば行くほど、確実に達成できる目標しか設定しません。これが一番怖いことです。本来の方向と違った方向に行ってしまうことだけは、避けなければなりません。ですから、全て数値目標で評価したのではなく、数値目標のプラスアルファのところを、どう評価することが健全な運営につながっていくと思います。

【政策部長】 11ページのところは、基本的に昨年と同じ表記ですので、この形にしておいて、5ページの表のところを、昨年の表に戻すのか、定量と定性の部分を分けて表記するのがいいのかとなりますが、定量的にAとかBとかの表記をしないのであれば、数値目標のAからDの区分はいらないでしょうか。

【委員】 今の話を伺いますと、単純に数値目標の達成状況のところは表からとってしまって、「総合評価の基本的な考え方」を残して、数値目標は全体の評価のベースにしているというような表記を注釈などで示して、計算の仕方などを書いておけば、昨年のやり方と同じになると思います。

【政策部長】 そのような形で修正をさせていただきます。

【委員】 数値は達成しているけど、懸案などがあるから、総合評価をB評価にすることは、割かしあると思いますが、逆もあるのでしょうか。5ページの表は総合評価をするときのスタートラインとして、数値目標ではいったんAとかBとかのスタート地点を表現されたものと思います。例えば、数値目標が75%のものがAになるような例もあるのでしょうか。

【企画課】 本日はお示ししていませんが、全体で延べ77事業のうち、47事業が数値目標の達成状況と一致していて、数値目標に対して、自己評価が下がっている例が22事業、逆にランクアップしている例が8事業ありました。

【委員】 庁内に自己評価の仕方を説明しているやり方を表現するならば、数値目標の区分は表からは外して、数値目標の達成状況をひとつの基準としての記述の部分に注釈を入れて、「評価がAであるためには、以下の原則を設けています」とか、「Aになるためには数値目標の達成状況が原則100%以上」、「Bになるために数値目標の達成状況が75%以上」などの注釈を設ければ、現実に庁内での自己評価の方法が当てはまると思います。

【部会長】 では、そのような形で表の修正をお願いします。
目標値というものは常に課題があります。目標値を担当課で決めるのか、委員のお話にもありましたが、低い目標ばかり設定してしまうと、目標値になってないわけですね。今回は新規の目標値がだいぶ設定され、改善はされていますけど、客観性も持たせた目標値の設定が今後の課題であると思います。

す。担当課の設定は本当に無難なところで落ち着いてしまいます。そういうチェックも必要ですね。

他に意見がないようでしたら、次に進みます。具体的に基本目標 1 の説明をお願いします。

【企画課】 資料 2 の説明（P9-P15）

【部会長】 質問、意見があればお願いいたします。

【委員】 13 ページの No. 10「歩道の整備」の施策が自己評価 D で遅れているとあります。一方、水無川風の道構想の推進に係る K P I の「市道 6 号線における歩道（幅員 5 m 以上）整備延長」では、平成 29 年度の達成率が 101.1% となっています。これは、6 号線以外の路線が 5 路線入っていて、全体で遅れているから自己評価が D ということですか。

【企画課】 9 ページの K P I で設定している「市道 6 号線における歩道（幅員 5 m 以上）整備延長」は、市道 6 号線に限定しています。13 ページの「歩道の整備」は市域全体の目標となっています。

【委員】 そうすると、K P I に市道 6 号線だけを取り出したというのは、どういう意味ですか。

【企画課】 水無川沿いが市道 6 号線だからです。

【委員】 そうすると、市道 6 号線以外の路線も基本目標の区分に入れても、大丈夫ですか。一般的に見れば、「歩道の整備」が遅れているという評価になれば、風の道構想が遅れているという見方になってしまうと思います。
資料 3 を作成していただいたので、こういうことが分かってきます。

【部会長】 K P I のところは、水無川に関係している市道 6 号線だけを抽出したということですが、残りの 5 路線は遅れていて、具体的施策の内容と K P I の内容にずれがあるのではないかと指摘ですね。

【委員】 形としては、豊かな自然・良好な住環境づくりプロジェクトというものがあるが、それを森林とか道路とかまちのコンパクト化などの観点から考えると、そこにぶら下がっている関連事業があります。それと、重要プロジ

ェクトの業績達成指標として、9 ページに3 つありますが、これだけでは、良好な住環境づくりプロジェクトとしては、評価できていないかなと感じます。

【委員】 この計画自体が平成32年度までの実現目標で、その中に、新規右折レーンの設置という目標があって、それが達成できたために、新しい目標を設定したということですけど、ここが正しく安易な目標設定になっていると思います。本来、大前提の大きな基本目標から言えば、もっとふさわしい目標がここに入ってこなければなりません。実現が可能な目標が入っているから、秦野市全体の歩道の目標と整合がとれていないわけですね。逆に質問しますが、市道6号線の歩道の整備とは全体で何メートル必要なのですか。

【企画課】 手元に資料がありません。

【委員】 結局、お手盛りの目標になっているのではないかと、そのところが、冒頭、私が言いたかったことです。

【委員】 目標値の設定が適切かという話もありますが、K P Iで設定しているものと、施策対象事業が77事業ありますけど、その77事業を評価したときに、このK P Iがその77事業を代表する指標となり得るかという点と、たぶん代表的な指標にはなっていないと思います。整合性をとるのは、すごく難しいので、とりあえず、この指標で見ているというように、K P Iの部分は理解するしかないと思います。そうしないと、今からこのK P Iを見直して、施策体系も見直しましょうという話になってしまうと、收拾がつかないと思います。一応、評価は77事業の評価があって、総体として基本目標に対しては、概ね順調に進んでいるという評価は、K P Iに関係なくとも、可能だと思います。これは仕方ないですね。本来はK P Iを設定するところで、こういう議論があるべきだったと思います。

【部会長】 今回は、このK P Iで評価するという前提ですから、この前提を崩してしまうと、一からやり直しということになってしまいます。ただし、基本目標全体を見れば、このK P Iが明確な基準になっていないものもありますので、昨年度も指摘していますが、K P Iの在り方、目標値設定の在り方をこの外部評価を経験に見直ししていくということが、課題であるということとでまとめたいと思います。例えば、風の道は、ただ歩道が延びただけで、

それが風の道になるのかと言え、それは整備の水準が違うと思います。ただ、今回は、委員の御意見のとおり、とりあえず、このK P Iで設定したけれども、事業が変化していけば、見直すということになっていますから、見直しの方法や視点を助言し、施策の構造の質を高めることにつながるようなK P Iを設定しなさいなど、そういう課題を指摘したいと思います。

【委員】 資料4を見ますと、1がK P Iの評価になっていて、2が各施策の自己評価になっています。そして、1と2を総合して、全体評価をしています。この1と2の事業でずれがあるときに、どのように評価するのかということですけど、それはおそらくそんなにずれはないと思います。本来であれば、客観指標でA、B、Cとかを決めて、そこから総合評価をするという言い方をしますが、実態は77の個別事業の方がウエイトが高くて、K P Iとのずれがあるものは、総合評価の中で判断しているということにすれば、それは問題ないと思います。ただ、K P Iが77の事業を代表する指標になっているかというチェックは必要であると思います。よく検討すれば、もっとふさわしい指標もあるかと思うので、それに該当するものがあれば、次の計画期間の中で、取り入れていくということにすれば、よろしいかと思います。

【部会長】 K P Iなどの指標は、基本的には各課が挙げてくるのですか。政策部との議論はあるのですか。

【企画課】 中身について個別に一つ一つ議論はできていません。

【部会長】 こういう評価は、やりながら試行錯誤して、進化していくしかないですね。今回の評価はこうですけど、ここの部分が齟齬があるので、次回はこの視点でとか、全体を通して、指標の在り方を慎重に考えていくべきだとか、より進化する形で検討をするようにといったことなどを課題として指摘しておきましょう。

【委員】 客観的な指標と総合評価の自己評価がどのように分布しているのか、出してもらえば全体の様子がわかります。それと、ランクを変えたときの根拠は、補助金の交付率が下がったなど、自分達がコントロールできない部分で変わることがありますし、逆にランクダウンしている場合は、数値は達成しているけど、本来の目的を達成できてなくて、ランクダウンしているものもあると思います。次に評価をするときに、今回はこういう場合はランクア

アップしていて、こういう場合はランクダウンしていたなど、事例を示していけば、評価が一定してくると思います。次回に向けて、検討されればよいと思います。

【部会長】 委員の御意見のとおり、数値目標は達成していたけれど、自己評価はCとかになっていて、何で下がっているのかとか、全体の分布図を作成してみれば、分かってきますよね。全体像を説明できればよいですね。

【企画課】 今は、個々の施策の理由で終始していますが、数値目標と自己評価の差みたいなものを一つの括りで示せば、何か見えてくるものもあると思います。そこは、改めて、次回に向けて検討したいと思います。

【部会長】 どうしても、曖昧性というのがあって、それをどうやって客観的に見せるのかが、大事ですね。
他にいかがですか。

【委員】 13ページのNo. 10の「歩道の整備」ですが、予算が付かないから、歩道の整備ができませんでしたでは、それまでですが、それをカバーする策を警察と相談したとか、ソフト事業の充実があれば、自己評価がDでなくてもよいわけです。例えば、予算1000万円を要求したけど、こういう時代だから300万円しかつかなかった。その300万円をハード事業とすると、その残りを補うため、自分達がどんなソフト策を講じたかが大事ですね。

それぞれの地方の自治体は同じような状況であると思いますが、そここのところの知恵の絞り方が重要です。ここにいらっしゃる皆さんは、そういうことを各部署に降ろして、よくできたときは、賞賛していけば、市役所の中でそういう議論が活発化していくと思います。ですから、去年も指摘していましたが、No. 10の事業の課題欄で、「ソフト事業等による補完策」という1行で表現されていることがすごく残念です。

【委員】 確かに、歩行者の安全ということで見れば、道路整備ということだけでなく、標識などのサインを変えることで可能です。

【部会長】 この外部評価ではそこまで求めていないかもしれませんが、課題に「ソフト事業等による補完策」というのがあって、これを単独課で終わらせるのではなくて、その次の議論を庁内横断で、他の部署と知恵を出し合って、どうやっていくかが早急な課題であるという指摘ですね。ここから、見えて

くるものは、たくさんありますので、未来のまちづくりへの課題として指摘しておきたいと思います。

【委員】 私も倉敷の水害以来、考え方が変わっていると思います。今までは、国庫がつかないので、翌年度に整備するということで通りましたが、今はそれまでの間に何をするのが問われますよね。

【部会長】 ほかになければ、次に進みます。

【企画課】 資料２の説明（P17-P22）

【部会長】 質問、意見があればお願いいたします。

【委員】 17ページの2番目の「学び育つ教育環境づくりの推進」で、新規に2つKPIが設定されたのは良いことだと思いますが、本来、子ども達と接する教職員達ですので、「授業でICTを活用できる教職員の割合」は100%でなければおかしいと思います。それから、「児童・生徒の授業がわかる割合」も、昨年度もお話しましたが、秦野市の学力は全国平均以下、神奈川県内でも平均以下ですよね。そうすると、この75%という目標がいいのか、もっと高い目標にチャレンジしないと、私はいけないと思います。ですから、この辺のところが、お手盛りで、ここにいる皆さんが、もっと高い目標を持とうという意思を示さないと、未来につながることは、ずれてしまいます。特にICTは、積極的に授業に取り入れないと、子どもに差が出てしまって、非常に不幸なことになります。

【委員】 KPIの「ICTを活用できる教職員の割合」は、具体的施策でいうと、No. いくつの施策ですか。

【企画課】 No. 29の「幼小中一貫教育の推進」とNo. 36の「教材整備等による教育環境の充実」が該当します。

【委員】 ICTを活用できない教職員とはどういう意味ですか。

【企画課】 おそらく、授業で活用できていないという意味だと思います。

【委員】 能力的な問題と、環境整備的な問題があると思います。

【部会長】 どうして75%にしたのかなど、KPIの設定の経過が分からないと何とも言えませんよね。

【委員】 KPIを設定しておいて、その中身が見えてこないですよ。また、自己評価の総括ですけど、昨年は「KPIも6項目中5項目で達成していることから施策は概ね順調に進んでいます」と記載していて、今回は、「KPIも9項目中3項目で目標値を達成し、大きな遅れは認められないことから施策は概ね順調に進んでいます」とありますが、お手盛りの評価になってないですかね。KPIが達成できなかった評価を自己評価の総括で正しく反映できていますかね。これを市民が見たときに、理解しづらいと思います。先ほどの基本目標1でも、D評価がありましたけど、全体の77事業のうち2つですよ。そのD評価があるのに、概ね順調に進んでいるという評価になると、説明が必要ですよ。

【委員】 自己評価の総括が「概ね順調に進んでいる」というのは、KPIで見ると、100%以上のものが、9個中3個あって、75%以上のものが5個あるから、B評価以上のものがほとんどなので、全体をB評価にしたということだと思います。文書でみると、9項目中3項目しか達成していないという表現になっていますが、実際はほとんどが概ね達成しているわけですよ。資料4のところで、自己評価の総括を行っているわけですよ。そうであれば、マジョリティーでB以上の達成となっているので、あまり間違いはないと思います。ですから、資料4の流れが分かるような表現をすればよいですよ。

あと、違う視点ですけど、KPIのところで、「ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合」で最終的に88%という目標を設定していますけど、残り十数%の人たちはどういう人達で、そういう人達が子どもとゆったりと過ごすためにはどうしたらいいのかとか、子育て教室に参加していない人達に参加していただくためには、どうしたらいいのかという分析などはされているのですかね。そういう方々にどのようにアプローチしていくのが課題ですよ。

【企画課】 19ページのNo. 25の事業の実績欄を見ていただけると、少しヒントになる事項が分かります。乳幼児の健康診査の実施ということで、受診率が記載してあります。実際に受診されていない御家庭を把握している中で、電話や家庭訪問などは行っているということを聞いています。

【委員】 「ゆったりとした気分で」とは、経済的な理由で感じられないという方が多い気がします。ですから、このK P Iに関連している残りの部分は、子育て健康分野ではなくて、生活福祉とかの分野の話であるかもしれません。

先ほど来、K P Iの関係とその後ろにぶら下がっている個別事業との関係が見えづらいという指摘がありますけど、その部分は課題ですよ。事業が進めば進むほど、課題が見えてきて、今の施策体系でよいのかという話も出てくると思います。

【部会長】 やはり、施策を評価するというのは、数値目標が達成しているか、していないかだけでなく、なぜ達成できなかったのか、また、その枠から漏れている方々はどうしているのかなど、今後の課題として、これを活かして進めていくということが大事ですよ。それが評価の質を高めて、そしてK P Iに反映させるということにつながりますよね。こうした問題提起をしたいと思います。

【委員】 妊産婦新生児家庭訪問の割合も、なぜ100%の設定でないのか気になりますよね。95.5%の設定ならば、残りは数件ではないでしょうかね。

【部会長】 本来ならば、担当課が目標を定めたときに、ヒアリングできるような環境が必要です。指標を定めるときも、課題などの全体背景を示して、外部の人が見ても分かるように設定する必要があります。

【企画課】 補足ですけど、新規のK P Iの「授業でICTを活用できる教職員の割合」ですが、最終的に31年度に70%の目標を掲げていますが、設定時の平成28年度の実績が、54.9%だったそうです。そこから、毎年度5%ずつ引き上げるという内容です。また、「児童・生徒の授業がわかると回答した割合」ですけど、平成28年度の実績が74%で、総合計画の最終年の平成32年度には80%にしたいという内容になっています。あと、「ゆったりとした気分で子どもと過ごせる母親の割合」ですが、もともとの厚労省が出しているもので、平成25年度の全国平均が、68.5%だったようです。

【部会長】 そういう情報がわかると、なるほどと思うこともありますし、どうしてと思うこともあると思います。担当者としては、妥当な数字かもしれませんが、社会としてはどうかということもあります。

ですから、今、この評価で見えてきたことを、今後どのようにつけてい

くかが大事ですね。

【部会長】 ほかになければ、次に進みます。

【企画課】 資料２の説明（P 23- P 27）

【部会長】 質問、意見があればお願いいたします。

【委員】 K G Iで「要介護等認定率」が最終的には15.8％に抑えるという目標と伺いましたが、推計的にはどの程度まで上がってしまうのですか。

【企画課】 高齢者の保健福祉事業とか、介護保険事業を趣旨とした市の計画がありますが、その計画の推計では、平成32年度で16.1％になる見込みだそうですが、介護予防事業等を実施していくことで、抑制していくという目標になっています。

【委員】 平成32年度で16.1％ですから、それを超えないような目標ですよ。あまり、高い目標とは言えませんね。

【委員】 No. 46の「空家等対策の推進」の数値目標が、0件というものになっていますが、どのような趣旨ですか。

【企画課】 特定空家という、いわゆる、危険な物件がありまして、それを早期に発見して、事前に指導することによって、特定空家にならないようにするという意味で0件という目標になっています。

【委員】 23ページの2番目の「生きがいを持って安心して暮らせるまちづくりの推進」ですけど、市内には介護施設、グループホーム的なものが増え続けています。産業面で見ても、これだけ高齢者が増加している中で、例えば秦野市は病院との連携が取れているとか、相談との連携が取れているなどの特色があっても良いと思います。地方では民間を中心に盛んに行われています。秦野市としてのまちの魅力づくりのために、そんな施策が出てきても良いかもしれません。金融機関でも、そういう融資が増えているのではないのでしょうか。

【委員】 やはり、民間で多く出ています。秦野市の強みになるのが、東京と比べて、底地が安いので初期費用が安いということがあります。利用者が通

えるところで、老人ホームなどを建てようというニーズがあって、設備産業なので、いかにイニシャルコストを下げるかということが、ある意味、秦野市の強みであると思います。

【部会長】 この基本目標では、地域包括ケアに積極的に取り組んでいますよね。

【企画課】 市として、力を入れている事業であると認識しています。

【部会長】 より、ネットワークをどのように強めていくか、あるいは強まっているのが、秦野市ですよということですよね。

【委員】 そうしたインフラが整備されることが、秦野の人口減少につながるとは思いますが、税収のことは別ですよ。

【部会長】 昔、ある温泉街で高齢者施設がどんどんできて、高齢者増えてしまって、行政の負担が増加したという例があります。やはり、人口バランスですよ。高齢者にやさしいまちというもの確かによいのですが、やはり働く人達も来てほしいですよ。都市の経営ということになると、バランスが大事で、究極のテーマになりますよね。ただし、地域包括ネットワークというのは、これからの地域の中で、ものすごく重要になりますよね。つまり、介護とか医療との連携ですよ。

【委員】 各地で民間が中心になって施設をつくって、高齢者を呼び込んで、人口を増やして、地元の人との融和も図って成功している例がかなりあります。

【部会長】 ほかになければ、次に進みます。

【企画課】 資料2の説明（P29-P34）

【部会長】 質問、意見があればお願いいたします。

【委員】 29ページの3つ追加したKPIについて、似たようなもの感じます。KPIは、選りすぐられたものという感じがしますが、必要でしょう

か。

【企画課】 担当課の意気込みから設定しています。

【委員】 一つだけどれかを代表させれば、十分な気がします。

【委員】 地域資源を生かしたといいながら、ここには、「水」が出てこないですよ。あとは、秦野の地場産野菜などがあっても良いですよ。

私は、名刺に秦野名水のロゴを入れています。あと、出張の際には必ず映画「じんじん」のパンフレットを鞆に入れて行きます。出張先では、「じんじん」の話をして、こういう映画があるよとか、見たい方がいれば言ってほしいとか、宣伝をしています。やっぱり、そういう人を動かすというか、人をその気にさせる施策が足りない気がします。

【部会長】 K P I について、今後検討する際には、代表的な指標で検討するようにしていただきたいと思います。

【委員】 N o . 6 4 の「花のある観光地づくりの推進」で、菜の花、ポピーを植えるものもいいですが、その隣の畑は、ブタクサやセイタカアワダチソウが生息している中で、できれば秦野市として、外来種などに対するガイドラインみたいなものを作成しておかないと、新住民の方でも玄関先でセイタカが咲いているのを良しとしている方もいらっしゃると思います。ブタクサも環境被害が出ています。やはり、秦野は環境先進都市として、まちづくりを進めているのですから、何らかのガイドラインみたいなものがあって良いと思います。

【部会長】 そうですね。地域の中でもそういった対策が必要です。今後の課題として、見えてくるものであると思います。

【委員】 シティプロモーションの所管課はどこになりますか。

【企画課】 広報課で所管しています。

【委員】 シティプロモーションとなると、概念が広いですよ。市内に対する広報でなく、市外に対する広報のあり方ですよ。何でこういう質問をす

るかという、観光課が所管ではないかと、思ってしまった。もう少し、施策の広がりとかを意識していかないと厳しいかと思いました。

【委員】 昨年度、私の部会で水をテーマにした最適化支援を行い、シティプロモーションをどうするのかという話がありました。基本的には各部局が持っている資源があるので、それを活用して、シティプロモーションしていく姿勢が出てくれば、それが一番望ましいという話でした。ただ、そうなるためには、市全体のシティプロモーション像を所管するところが、必要であって、今は広報課という話ですけど、やはり部局横断的な部署が必要ではないかという話は議論していました。

【委員】 今、新たにボーリング調査をしていますよね。秦野の地下水量は芦ノ湖の1.5倍と言われていましたが、もっとあるのではないかという可能性が出てきて、2回目のボーリング調査をはじめています。

【委員】 水と桜とか、それらの施策が連携して、また、水を守るためにそれに合わせた都市整備開発みたいなものを含めて、全部リンクしている話ではないかという報告書をまとめた記憶があります。

【委員】 シティプロモーションのKPIを見ていても、少し小さい目標だと感じます。やはり、企画課みたいな部署が全体を総括して、その方向性で各部署に降りていくような体制が必要かもしれません。

【部会長】 これも、指標から次なる事業の展開や体制のあり方などが見えてきますよね。ですから、その辺りを今後の課題として、ただ単に事業を実施するのではなく、広がりとか、つながりを意識して、本当に市の特色を生かして、まちづくりにつながっているかどうか、見極める必要があるということで、より具体的に見えてきますよね。より広く連携しながら、秦野らしい施策にどうやってつなげていくか、そういう意見ですね。

そのほかになれば、本日の会議を踏まえて、1週間後に各委員からコメントをいただきたいと思います。

あと、事務局の方から連絡事項があればお願いします。

【事務局】 事務局から次のとおり連絡

第5回会議	平成30年11月12日（月）	午前9時半から
市長への報告	平成30年11月21日（水）	午後2時半から

第6回会議 平成31年 1月21日（月） 午前9時半から

【部会長】 何か質問等はありませんか。

ないようでしたら、以上をもちまして、本日の会議を閉会といたします。

－ 閉 会 －